

## 補助事業概要

補助事業番号 23-1-109

補助事業名 平成23年度 国際映画祭の開催 補助事業

補助事業者名 公益財団法人 ユニジャパン

### 1. 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

国際映画祭を開催し、国際文化交流の促進とわが国の映像文化の発展を図るとともに、日本映画の海外情報発信を通じて文化交流及び海外普及を促進し、もって公益の増進に寄与する。

#### (2) 実施内容

##### ①国際映画祭の開催

国際映画製作者連盟公認のアジア最大の国際映画祭として、六本木ヒルズ(東京・港区)をメイン会場に、平成23年10月2日(土)より10月30日(日)までの9日間、[第24回東京国際映画祭](#)を開催した。

東京国際映画祭は「コンペティション部門」、「特別招待作品部門」、「アジアの風部門」、「日本映画・ある視点部門」、「WORLD CINEMA」の主要5部門で構成され、日本・海外の最新話題作をいち早く上映し、各作品のゲストを招いて映画祭を華やかに盛り上げ、内外の映画関係者や観客との交流を深める映画の祭典となった。

また、東京国際映画祭を広く一般に周知させ、国際映画祭として盛り上げる為に、以下の広報活動を行った。

- ・ 広報媒体の活用
- ・ 予告編、作品の先付けフィルムの制作と劇場上映
- ・ 新聞広告の掲載、街頭広告の制作設置
- ・ プレスセンターの設営と運営

##### ②ホームページの制作・運営

本法人では、平成15年より日本映画の海外情報発信を目的としてホームページを制作運営してきた。ページのアクセス数も高い水準を維持しており、ホームページ企画の内容は以下の通りである。

- ・ 本法人の活動情報の掲載
- ・ 日本映画の産業データ、作品データ、人物データ
- ・ 日本国内・海外映画産業関連のディレクトリー

(映画団体、製作会社、映画祭、映画学校、フィルムコミッション、映画製作支援の情報等)

- ・ 日本映画に関するニュースやマーケット情報
- ・ 第24回東京国際映画祭情報及び開催期間中はリアルタイムでの情報発信

平成 23 年度 事業内容掲載 URL

[http://unijapan.org/files/pdf/keirin2011\\_jigyougaiyou.pdf](http://unijapan.org/files/pdf/keirin2011_jigyougaiyou.pdf)



© 2011 TIFF

六本木ヒルズ アカデミーヒルズ入り口

観客賞受賞『ガザを飛ぶブタ』 ミリアム・テカイ、シルヴァン・エステバル監督  
(舞台挨拶時のポスター)



© 2011 TIFF

審査員特別賞受賞『キツキと雨』 小栗旬、役所広司、沖田修一監督  
(舞台挨拶時のポスター)



© 2011 TIFF

クロージング「感謝の夕べ」バックパネル 依田チェアマン、高井理事長



© 2011 TIFF

映画祭記者会見（9月）TIFF Boys

## 2. 予想される事業実施効果

東京国際映画祭を通じて育まれた才能は、我が国のみならず、世界のさまざまな国や地域において定着し、映画文化の継承と発展に貢献しており、その結果、東京国際映画祭には質の高い作品が集まり、非常にレベルの高いコンペティションが行われる事となる。その中で磨かれる幾多の若い才能がさらなる飛躍をとげて世界の映画界をリードしていくという好循環を生み出し、東京国際映画祭の一層の発展に寄与してくれるものと期待するものである。

3. 本事業により作成した印刷物等

公式チラシ	180,000枚
公式プログラム	8,000部
公式記録	5,000部
ポスター	1,850部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 ユニジャパン  
(コウエキザイダンホウジン ユニジャパン)

住 所： 104-0033  
東京都中央区新川一丁目 28 番 44 号

代 表 者： 代表理事・理事長 高井 英幸  
(ダイヒョウリジ・リジチョウ タカイヒデユキ)

担当部署： 総括管理部 総務グループ (ソウカツカンリブ ソウムグループ)

担当者名： 統括プロデューサー 川崎 浩 (カワサキ ヒロシ)

電話番号： 03-3553-4780

F A X： 03-3553-4785

E-mail： [hiroshi.kawasaki@uni-japan.org](mailto:hiroshi.kawasaki@uni-japan.org)

U R L： <http://www.uni-japan.org/>

次ページ以降は、過去の補助事業の内容に関する資料となります。

東京国際映画祭出品作品・監督等のその後の評価について

2011. 10. 11

東京国際映画祭事務局

事務局長 都島 信成

東京国際映画祭（TIFF）での出品の後、海外でも評価の高くなった監督や作品の事例を以下、挙げたいと思います。

第10回（1997年）

○オープニング作品「タイタニック」（ジェームズ・キャメロン監督）

この作品は、先ごろの「アバター」に抜かれるまでは世界で最大のヒットとなったハリウッド大作だが、当時、東京国際映画祭がワールドプレミア（世界最初の上映）の舞台となった。全米公開に先立つこと1ヵ月半前。多額の制作コストがかかり、成功自体が危ぶまれていたが、TIFFでの上映をきっかけに世界的に大ヒット。日本でも洋画ではいまだにNO.1の座に輝いている。キャメロン監督は今でもTIFFに対して感謝の念を抱いている。（先日、「アバター」で来日した際にも本人自身のコメントとしてそのように言っていた）

第11回（1998年）

○東京グランプリ作品「オープン・ユア・アイズ」（アレハンドロ・アメナーバル監督）

アメナーバル監督はスペインの俊英監督で、この作品の世界的評価をきっかけに、「アザーズ」（ニコール・キッドマン主演のスリラー）、「海を飛ぶ夢」（全身麻痺の主人公の尊厳死を扱った実話）、「アレキサンドリア」（カンヌ映画祭出品の歴史大作）と今、眼が離せない映画監督に成長した。因みに、「オープン・ユア・アイズ」はトム・クルーズ主演の「バニラ・スカイ」としてハリウッドリメイクされた。また、双方の作品に同じ役で出演していたペネロペ・クルスは、アカデミー賞も受賞するなど、今や世界的に有名な女優となった。

○最優秀監督賞受賞 ガイ・リッチー（「ロック、ストック&トゥー・スモーキング・バルズ」）

英国出身のガイ・リッチー監督は、このデビュー作で一気に世界的な評価を得、次回作ではブラッド・ピットを起用（「スナッチ」）、その後も、「シャーロックホームズ」シリーズを手がけるなど、大作の監督として、大いに期待されている。

第13回（2000年）

○東京グランプリ作品「アモーレス・ペロス」（アレハンドロ・ゴンザレス・イニャリトゥ監督）

メキシコ出身のイニャリトゥ監督はこの作品で世界的に評価を得、その後、菊池凛子のアカデミー助演女優賞ノミネートが日本でも大きな話題になった、ブラッド・ピット、役所広司ほか主演のアンサンブルドラマ「バベル」がカンヌ映画祭で上映、アカデミー賞にもノミネートと世界的な巨匠の一人になりつつある。

また、一昨年(2009年)の第22回では、コンペティション審査委員長として凱旋を果たしていただいた。

#### 第19回 (2006年)

最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、観客賞3部門受賞「リトル・ミス・サンシャイン」(ジョナサン・デイトン&ヴァレリー・ファリス監督)

この作品は、TIFFでの受賞後、海外でも大変高い評価を得、アカデミー賞にもノミネートされ、見事、助演男優賞を受賞することができた。また、主演女優賞のアビゲイル・ブレスリンはその後も「幸せのレシピ」や「わたしの中のあなた」などに出演、名子役として順調に成長している。

#### 第21回 (2008年)

審査委員特別賞「アンナと過ごした4日間」(イエジ・スコリモフスキ監督)

スコリモフスキ監督は、ポーランドの巨匠監督として既に名声は得ていたが、長らく、表舞台に出て来ず、この作品で久しぶりに「復活」した。勿論、世界的にも高い評価を得て、次回作「エッセンシャル・キリング」はベネチア映画祭でワールドプレミア上映され、見事、審査委員特別賞と主演男優賞を受賞した。

#### 第22回 (2009年)

アジア映画賞「冬の小鳥」(ウニー・ルコント監督)

この作品の主演である、キム・セロンは天才子役としての評価を得、今年、日本でも公開されたウォンビン主演の「アジョシ」にも出演、韓国では昨年最大のヒットとなった。

#### 第23回 (2010年)

日本映画・ある視点作品賞「歓待」(深田晃司監督)

この作品は、TIFFでの受賞をきっかけに海外の様々な映画祭から出品要請の連絡が入ったと聞く。

以 上